

JP092 瓢湖 (ひょうこ)

新潟県：阿賀野市

位置	N 37° 50′ E139° 14′
面積	310ha

環境構成【湖沼／湿地／水田】

瓢湖は越後平野の東端、五頭連峰の裾野に広がる阿賀野市にあり、江戸時代初期に農業用水用の池として造られた。1950年にハクチョウが初めて飛来し、1954年には「水原のハクチョウ渡来地」として国の天然記念物に指定された。その後渡来数の増加とともに新池、あやめ池、さくら池を拡張し、現在では湖水面積 24 ha、総面積 280 ha の瓢湖水きん公園として整備されている。湖面にはオニビシ、ハスが生育し、北東側にはヨシ原が広がる。池の周囲にサクラが植栽され、あやめ池とさくら池ではヨシ、マコモが繁茂し、アヤメなど湿性植物が生育している。湖面では約 6,000 羽のハクチョウ類、20,000 羽のカモ類が越冬し、瓢湖周辺の広大な水田地帯は、ハクチョウ類の採食場所となっている。瓢湖の南西部には阿賀野川が流れ、中洲ではコハクチョウの群れがねぐらをとる。



写真：岡田成弘

選定理由

A4i	コハクチョウ・マガモ・オナガガモ
A4iii	カモ類

保護指定

サイトの一部（10～49％）に法的な担保がある。

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（瓢湖）、都道府県立自然公園、自然環境保全地域

<その他>

ラムサール条約登録湿地、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地、国指定天然記念物水原のハクチョウ渡来地

保全への脅威

・湖底のヘドロの堆積

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
変わらない
 - ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
- <調査データの入手方法>
- 生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない
 - ・ IBA 選定基準種の生息環境：
普通（70～90%が最適の状態）
 - ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（阿賀野市、瓢湖のハクチョウを守る会）
内容：瓢湖の水質調査
- ・ 外来種のコントロール：実施者（瓢湖のハクチョウを守る会）
内容：帰化植物（セイタカアワダチソウ）の駆除
- ・ 環境教育活動：
内容：探鳥会（新潟県、新潟県野鳥愛護会、瓢湖のハクチョウを守る会）
地元小学生によるハクチョウパトロールの支援（瓢湖のハクチョウを守る会）
- ・ 保全のための人材育成活動：実施者（新潟県、新潟県野鳥愛護会、阿賀野市瓢湖管理事務所）
内容：野鳥講演会の開催
- ・ モニタリング調査：実施者（瓢湖管理事務所、瓢湖のハクチョウを守る会）
内容：ハクチョウ類ガン類の飛来数調査

IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- ・ 瓢湖のハクチョウを守る会
- ・ 新潟県野鳥愛護会

見られる鳥

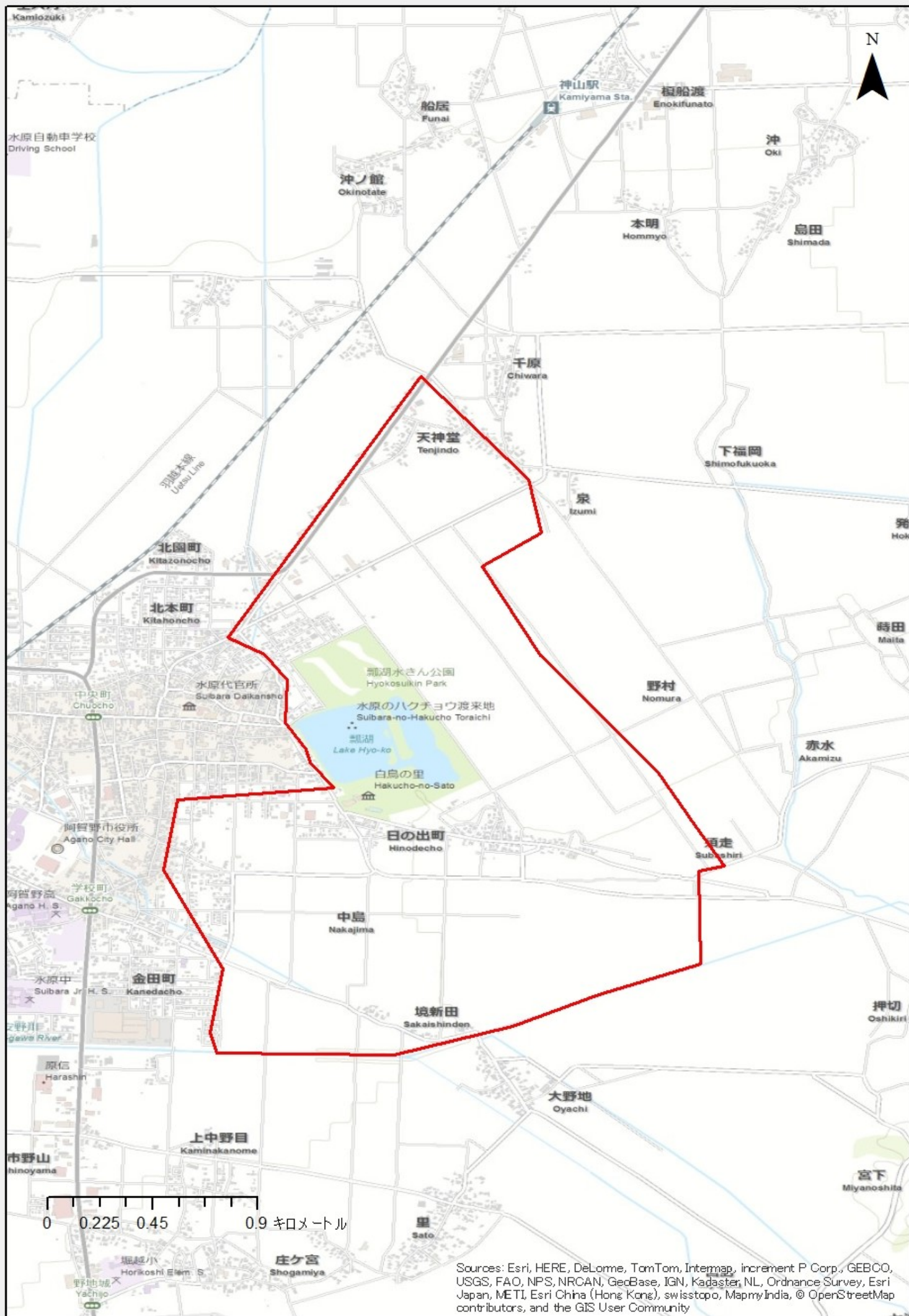
2008年10月、地元関係者の努力が実りラムサール条約登録湿地となった。現在では約6,000羽のハクチョウ類、オナガガモ、キンクロハジロ、ホシハジロをはじめとする約2万羽のカモ類が越冬する。瓢湖周辺には水田が広がり、ハクチョウなどカモ科鳥類の採食場所となっている。夏季にはオオヨシキリ、ヨシゴイなどの夏鳥が繁殖し、これまでに約100種の鳥類

が確認されている。

夏鳥	ヨシゴイ、バン、オオヨシキリ、カワセミ
冬鳥	オオハクチョウ、コハクチョウ、ヒシクイ、マガモ、コガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ヨシガモ、オカヨシガモ、アメリカヒドリ、トモエガモ、ミコアイサ

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会新潟県
- ・水の公園ビュー福島潟



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster, NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community